

事後評価結果（平成25年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：和泉 晶裕

事業名	一般国道241号 帯広北バイパス <small>おびひろきた</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道河東郡音更町共和 <small>ほっかいどう かとうぐんおとふけちょうきょうわ</small> 至：北海道帯広市西17条北1丁目 <small>ほっかいどうおびひろしにし じょうきた ちようめ</small>	延長	12.5km		

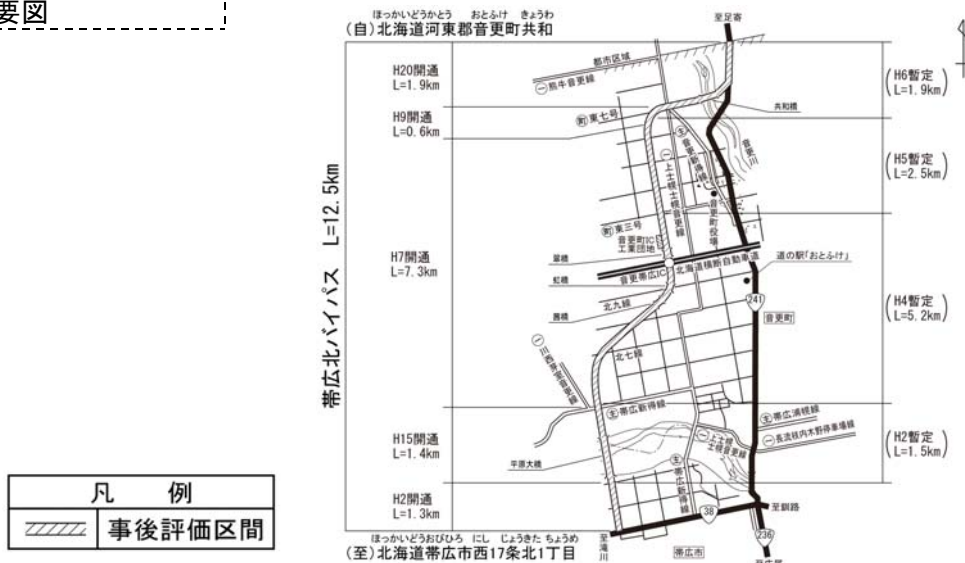
事業概要

国道241号は、弟子屈町を起点とし、帯広市に至る延長約150kmの幹線道路である。
このうち帯広北バイパスは、音更町共和から帯広市西17条北1丁目に至る延長12.5kmのバイパス事業である。

事業の目的・必要性

帯広北バイパスは、北海道横断自動車道音更帯広IC及び音更町IC工業団地への連絡機能の強化を図り、物流効率化等を支援するとともに、音更町市街における交通混雑の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S58年度	用地着手	S59年度	供用年	(当初) - / H20年度 (実績) - / H20年度	変動	1.0倍	
		都市計画決定	S57年度	工事着手	S60年度	(暫定/完成)				
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / (実質値) - /	300億円 257億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) - / (実質値) - /	311億円 266億円	変動	1.0倍	
交通量	計画時 (現道)	22,482 台/日			実績 (現道/当該路線)	35,105/11,325 台/日			変動	206.5%

旅行速度向上 (開通前現道→開通後現道/当該路線)	21.2 → 28.9/52.3 km/h (開通前年次) S55年 (開通後年次) H22年	交通事故減少 (開通前現道→開通後現道)	54.8 → 17.3 件/億台km (開通前年次) H1~3年平均値 (開通後年次) H21~23年平均値
------------------------------	--	-------------------------	---

費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	1.8	総費用	20億円 (事業費: 12億円 維持管理費: 8億円)	総便益	35億円 (走行時間短縮便益: 32億円 走行経費減少便益: 1億円 交通事故減少便益: 2億円)	基準年 平成14年
	※総費用及び総便益は残事業区間を対象に算出						
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.3	総費用	657億円 (事業費: 604億円 維持管理費: 53億円)	総便益	824億円 (走行時間短縮便益: 759億円 走行経費減少便益: 36億円 交通事故減少便益: 29億円)	基準年 平成25年
	事業遅延によるコスト増		費用増加額	一億円	便益減少額	一億円	

事業遅延の理由

本事業は、昭和58年度に事業化され、昭和60年度に工事着手し、工事の着実な進捗を図り、計画通り事業が完了した。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

事業の整備効果

- ①工業団地への企業誘致や企業活動の利便性向上
 - ・ 確実性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、誘致活動及び工業団地に立地する企業の営業活動や物流利便性向上が図られた。
- ②物流の利便性向上
 - ＜豆類の流通利便性向上＞
 - ・ 音更町市街地を通過する大型車両が当該道路に転換し、十勝北部地域と出荷拠点間の安定性の高い輸送ルートが確保され、豆類の流通利便性向上が図られた。
 - ＜生体牛の流通利便性向上＞
 - ・ 安定性の高い輸送ルートが確保され、輸送時のストレスが軽減するなど、生体牛の流通利便性向上が図られた。
- ③音更町市街地の交通混雑の緩和
 - ・ 音更町市街地を通過する大型車両が当該道路に転換し、音更町市街地の交通混雑が緩和され、定時性の確保や利便性向上が図られた。
- ④道路交通の安全性向上
 - ・ 並行する国道241号の交通混雑が緩和されることで死傷事故が約4割減少し、道路交通の安全性向上が図られた。
- ⑤主要な観光地への利便性向上
 - ・ 快適性の高い周遊ルートが確保され、主要な観光地への利便性向上が図られた。
- ⑥日常生活の利便性向上
 - ・ 音更町市街地の交通混雑の緩和による交通の円滑化や定時性が確保されたほか、当該道路を運行するバス路線が新設されるなど、日常生活の利便性向上が図られた。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業による環境変化

環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：帯広市、音更町)
 - ・ 人口は、事業化当時約196.9千人(S60)→開通後約213.1千人(H22)となっている。(国勢調査)
 - ・ 農業産出額は、事業化当時約445億円(S60)→開通直前約474億円(H18)となっている。(北海道農林水産統計年報)
 - ・ 卸売・小売販売額は、事業化当時約8,352億円(S60)→開通後約5,536億円(H24)となっている。(商業統計調査、経済センサス)

今後の事後評価及び改善措置の必要性

帯広北バイパスの整備により、北海道横断自動車道音更帯広IC及び音更町IC工業団地への連絡機能の強化による物流効率化等の支援、音更町市街における交通混雑の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。

なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方についての、見直しを必要とする事項は見られない。また、事業評価手法について、見直しの必要性はない。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。